

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年2月24日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:011-758-4666

白石区姉妹死亡事件 生活保護行政改善求め、札幌副市長へ要請、記者発表



2月23日、道生連(北海道生活と健康を守る会連合会)は、生活保護行政の改善を求めて札幌市へ要請しました。要請書は渡部副市長に手渡しました。札幌社保協、北海道社保協の代表も同席しました。

会では「白石区姉妹死亡事件の調査を進めてきたが、その要因に白石区保護課の行政運営に重大な欠陥があった。札幌市全体に係わる欠陥でもある」と指摘、「亡くなった姉は3度も保護課を訪ねたが申請しなかった。相談に行っても申請書すら渡されていない実態が横行している」と申請できなかった9事例をまとめた事例集も市側へ手渡しました。

また、他市などの保護課では、申請書を受付に置いているところもあるが、札幌はどの区も置かれていない、『生活にお困りの方に』という市作成の生活保護制度の説明リーフレットの冒頭に、生活保護を利用してからの要件が示され、その要件が満たされなければ申請できないと思われるような内容になっていることなど指摘。①相談に当たっては最初に申請用紙を示して、誰でも申請できることなどを告げてから始めること。②リーフレットは改善し申請書とともに窓口置くこと。③ライフラインの滞納、供給停止状態の方には、支払い猶予などの情報を教示することなどを要請しました。



副市長は「事件については真摯に受け止めています。この分野は私が責任者です。要請書等読ませてもらい検討します」と答えました。

要請の後、記者会見を行い、要請の趣旨などを説明しました。同行した白石区社保協の今事務局長(写真)は「相談者の申請に区役所に行きながら生活保護の相談者が多く待ち時間も長い。担当者の増員も必要」と発言し、2.26緊急シンポの開催についても紹介しました。

広がる「生きていけない」現実あきらかに 生活保護を6回断られた方も

2.22 SOSネット街頭相談会

2月22日(水)、札幌地下歩行空間で雇用・くらしSOSネットワーク北海道主催の街頭相談会(12回目)が行われ、82件(うち電話相談4件)の相談が寄せられました。生活相談が19件、労働相談が12件など、長引く不況や改悪続く社会保障の下で、多くの方が大変な生活をしていることが明らかになりました。

生活相談では、「年金とアルバイトを合わせて月10万円強で生活している20代の姉弟と母親」「所持金がほとんどない方」など深刻な相談が多く、翌日以降7人が生活保護申請をすることになりました。一方、「家賃が高い」「築70年の家を売却しないとダメ」などを理由に生活保護を断られた方が4人いました。中には6回断られた方も。また、「将来の生活が不安なので生活保護を知りたい」など制度の説明を求める方も3人いました。一方、労働相談では、賃金不払いや解雇、労基法が無視されている実態が広がっていることも明らかになり、医療相談では、「C型肝炎が悪化しインターフェロン治療が必要だが失業中で医療費が払えない方」や無保険の方などの相談もありました。



札幌白石社保協が再建総会 2.26には白石区姉妹孤独死を考える緊急シンポ開催

2月18日、白石区社保協の再建総会が、各団体から39人集まり開かれました。第1部では「社会保障と税の一体改革の実態」の学習をし、第2部では準備会事務局長の勤医協柏ヶ丘・今さんが、再建に向けたとりくみと姉妹孤独死事件に触れながら白石における社保協再建の意義を強調しました。討論では各団体から豊富な発言が相次ぎ、最後に児玉新代表が、衆議院議員当時25年前の白石母親餓死事件を国会で取り上げたことに触れ「白石の社保協ができてよかった。皆で頑張りましょう」と挨拶しました。(札幌社保協FAXニュースより)

白石区姉妹孤独死を考える 2.26 緊急シンポジウム

日時 2月26日(日) 10~12時 場所 菊水ビル4階会議室 参加費 無料